

芸術文化学科1期生の皆さんへ

2000.4.17

技術造形学科 長嶋洋一

入学おめでとうございます。技術造形の長嶋です。このletterは、学生ガイダンス後の学科ミーティングで、私の属する技術造形学科の新入生の皆さんに宛てて書いたものを、今回、私が「現代芸術論(電子アート)」という講義を持つ予定の芸術文化学科の皆さん宛にリライトしたものです。皆さんを精一杯フォローアップしていくつもりですので、他の先生がた同様に、どうぞよろしくお願ひします。(^^)

大学のこと、学科のこと、初年度の履修登録のこと、等は学科ミーティングで話題になると思いますので、ここでは皆さんへ私からの個人的なメッセージをお送りしたいと思います。いままさにスタートしたばかりの新大学ですが、私は皆さんがまだ中学生であった頃から、このSUACのデザイン学部、そして技術造形学科という新しいコースについて白紙から検討してきました。デザインとアートの領域で、現在の/これからの、そして日本/世界にとって求められている人材を出現していくにはどうしたらいいか、という「夢」を熱く議論して検討してきました。また、同じSUACの文化政策学部にも芸術文化学科という新しいコースが生まれると知り、実際に自分もメディアアートの作家として公演を行ったりイベントのプロデュースをしている立場から、こちらも期待しつつ注目してきました。そして、いま現在、SUACのようなカリキュラムは世界にも例のない意欲的な構成となっている、というのは事実です。皆さんはその記念すべき第1期生として、われわれ教員とともにその歴史をスタートさせていく、これはお互いにとって素晴らしいチャンスであり出会いなのです。心から歓迎し、そして一緒に楽しくやっていきたいと思っています。

まだ実体のないSUACの入試に挑戦した皆さんも勇気が要ったと思いますが、推薦入試・前期入試・後期入試の監督や面接や採点をしてきて、皆さんの並々ならぬ意欲と才能に圧倒され、あらためて気を引き締めたのは、われわれ教職員も同じです。ここに揃った1期生の皆さんの持つ可能性と潜在能力をさらに伸ばしさらに引き出し、優れた人材として世に送るのはわれわれの責務です。もちろん皆さんも、いま現在のところで持っている前向きな意欲や夢を忘れることなく、どんどん自発的にあらゆることにチャレンジして欲しいと思います。「求めよ、さらば与えられん」という言葉は、「求めない者には何も与えられない」という厳然たる事実も意味します。高校までと違って、大学というのは黙って待っていても何も「教えて」はくれません。自分から学ぼうとして求める姿勢に対しては、いくらでも支援し伸ばしてくれるところなのです。この点は、スタートのいまの時期にしっかり認識しておきましょう。

さて、ここで私から皆さんに一つお願いがあります。私はコンピュータミュージックの領域を中心として、特にライブパフォーマンス、インタラクティブアート、メディアインスタレーション等を活動の主領域としています。そこで、皆さんの中で特にこれらのテーマに興味のある方とは、私の講義よりも早い時期から、より接点を持っていきたいのです(これは皆さんだけでなく、文化芸術学科の先生がたとも計画を始めたところで、技術造形の学生にも全員に呼び掛けています)。そこで、新学期のなるべく早い時期に、興味のある方はそれぞれ個人的に私の1106研究室に遊びに来てもらって、自由に話をしましょう、というお誘ひです。皆さんの夢・希望・展望を知りたいです(そこから適切なアドバイスが生まれます)、私という人間も知って欲しいです。ちょうど4/15の読売新聞朝刊遠州版には、取材されて私が載ったのですが、私の研究室にはアヤシイものがいくつも並んでいて、記者にウケていました。それも体験していただけます。

私の属する技術造形学科では、多くの学生がゲーム等のCGに興味があるのですが、一部には私と同じように、「音」とかパフォーマンスにこだわる者もいるようです。そこで私は、これらの学生には在学中から作品を発表する場を求めて活動し、せつかくのこの素晴らしい環境であるSUACもまた、ギャラリーやステージとして活用してイベントを仕掛けていきたいと思っています。私の1106研究室をその根城としていきたいと思っていますので、皆さんの中から、ここにコラボレーションする仲間が出てくることを期待しています。実際に自分が実現することで、本当にイベントや作品が生きる、という事実を体験しましょう。

私は当面、毎週金曜日だけ不在で、あとは月曜日から木曜日までは(実は土日も来ています(^_^))、たいてい学内、研究棟北棟の1106研究室にいます(朝型人間なので、特に朝は早いです)。いつでも誰でも気楽に来てもらえるように、ドアは常に開いています。ただし、一度に多数が入れるというものでもないの、基本的には「まずはアポを取ってから」として下さい。つまり、まずは事前に、何月何日の何時ぐらいに時間を取って、というアポイントを取って下さい。研究室に顔を出してでも電話でも(本当はメールがいいのですが、それをこれからまず学ぶので無理ですよ)、一人あたり30分か1時間程度の時間を作って下さい。アポ無しでも、たまたまその時間が空いていればその時でもOKです。コーヒーぐらいは出します(ただしシュガーはありません)。この「1106研究室訪問ツアー」は、基本的には一人、あるいは二人ずつぐらいまで、としたいと思います。皆さんの個性をなるべく覚えて、SUACでやってみたいこと、将来やってみたいこと、等について知って、より効果的な大学生を送れるように支援したいと思っています。(^^)

それから、もう一つ、かつて私も学生であった先輩、として呼び掛けておきたいことがあります。SUACは新大学ということで、まだサークルがありません。でも、他大学とかのサークルに単なる「頭数揃え」として勧誘されるというのも情けない話です。せつかくですから、どんどん自分たちでサークルを作っていく、やりたいことを実現しましょう。私も学生時代にはサークル三昧で青春した(自分の入学式までに7つのサークルに入っていました(^_^))クチですので、全面的に応援します。特に音楽系、「軽音」(バンド系)、「合唱団」、「バロック同好会」、「ジャズ研」などについてはぜひとも顧問として支援させていただきたいので(自分もやりたかったりして)、こちらの声もかけて下さい。大学は勉強だけする場なんてことはないのです。なんにでも全てチャレンジして、全力で完全燃焼して、全人格を形成する場なのです。

以上、長くなりましたが、このへんにします。とにかく、この出会いをチャンスとして、皆さんとともに私もまだまだ勉強したい、成長したい、青春したいと思っています。一緒に頑張りましょう。(^^)

